

## 第43回 宇宙科学・探査小委員会 議事要旨

1. 日時：令和3年3月30日（火） 15：00－17：00

2. 場所：宇宙開発戦略推進事務局大会議室

3. 出席者

（1）委員

松井座長、常田座長代理、関委員、永田委員、永原委員、竝木委員、  
松本委員、山崎委員

（2）事務局（宇宙開発戦略推進事務局）

松尾局長、岡村審議官、川口参事官

（3）関係省庁等

文部科学省研究開発局宇宙開発利用課

福井課長

国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構（JAXA）

國中理事

佐々木理事

4. 議事要旨

（1）令和3年度宇宙科学予算について

文部科学省から資料1を用いて説明があった。

委員からは、以下のような意見があった。

（○：意見等 ●：文部科学省からの回答）

○MMX（火星衛星画像探査計画）について、令和6年度に打上げ予定であるが、令和3年度予算額を見るとそれほど大幅増となっておらずペースが遅いように感じる。

●令和6年度打上げに向けて、着実に進めていく。

（2）月と火星に向けた探査について及び（3）月・火星における宇宙科学と探査のシナジー強化に向けて

JAXAから資料2、関委員から資料3を用いてそれぞれ説明があった。

委員からは、以下のような意見があった。

（○：意見等）

○トップダウンで進められるアルテミス計画に、宇宙科学がどう関わっていくのか。

○ボトムアップで考えてきた宇宙科学・探査とアルテミス計画との位置づけについて、議論を始めるべき。

- (4) 宇宙科学プロジェクトの進捗状況について  
JAXAから資料4を用いて説明があった。

委員からは、以下のような意見があった。  
(○：意見等 ●：JAXAからの回答)

- プロジェクトは順調に進んでいるか。  
●大きな支障なく進められている。

- (5) 宇宙科学研究所の人材育成の取り組みの方向性  
JAXAから資料5を用いて説明があった。

委員からは、以下のような意見があった。  
(○：意見等)

- 大学が宇宙研と連携して、人材育成を行う取組が必要ではないか。
- 超小型衛星が、世界の中心的な課題となってきた。超小型を利用した人材育成は有益ではないかと考えており、大学とISASがよく連携をして日本全体として人材育成に取り組むべきである。
- 観測ロケットや大気球による人材育成のプラットフォームを作るのがよい。

以 上